



Vol.4
7月号



中尾 逸伸

建設事業部 取締役建設事業部長

株式会社ガンシンの建設事業部で、取締役建設事業部長を務める中尾逸伸さん。建設業界で長く尽力されている中尾さんに、これまでの経験などについてお聞きしました。

どのような経緯でガンシンに入社されたのでしょうか。

前職ではマリコンに勤めていました。そこで働いている時に、前職の上司からの紹介で、縁あって2018年1月より出向という形で来させてもらい、入社したのは同年8月です。

仕事をやる上で苦労されていることは何でしょうか。

現在、営業や社員の育成、安全に関することなど幅広く仕事をしています。入社してまだ日が浅いため毎日大変です。建設事業部には20名の社員がおり、今は

一人ひとりの特性を見極め、状況を把握しているところです。

前職と仕事内容が異なり、なかなか慣れません。以前の会社は規模が大きいのもあって組織がしっかりしていましたが、地元根ざしたガンシンは少人数で行っているため、組織として弱い部分があります。しっかりした組織かつ地元で愛される企業へと期待されており、期待に応えられるように日々戦っています。

そして、風通しの良い会社になるように思っています。

印象に残っている仕事、こだわった仕事などはありますか。

十数年前、山口県下関市で橋脚工事を行ったことが印象に残っています。国土交通省の発注工事で、人工島の連絡橋を設置する工事でしたが、私は工事の作業所長という立場でした。人工島の工事に携わっていた会社は全部で

15社。作業員は200〜300人いる大工事です。

私は工事に携わる会社をまとめる協議会の会長も務めました。工事全体の総責任者の立場です。その工事は日本で初めての工法で造られるということで、新聞やテレビにも取り上げられて、ちよつとした話題になったんですよ。

完成した時は感動しました。今まで船舶でしか行けなかったのが、橋ができてスムーズに行けるようになったのだから、感極まりました。今もその場所に行けば、当時のことを思い出します。

また、こだわった仕事といえば、広島県三原市での工事です。請負金額が大きいプロジェクトで、より多くの利益を生むように様々な工夫をしました。これまでの経験からいろいろな知識を引っ張り出し、経験の積み重ねで得たものを発揮できた仕事でしたね。

ガンシンでのプロジェクトについてはいかがでしょうか。

ガンシンは地元の建設会社で、プロジェクトの金額はそこまで大きくはありません。ですが、金額の大小は関係なく、一連の作業は同じものです。前職では所長や主任など4〜5人で行っていた作業を、こちらでは全て1人で行っています。大変だと感じたのと同時に、よくやっているなど感心しましたね。

1人で全てできてしまうのは素晴らしい力量だと思いますが、万が一ミスがあった場合に発見できません。今はどこまで1人での作業にするのか、1人で作業した後の確認方法なども検討しながら、個人の経験と実績、能力とを合わせて模索している最中です。

失敗や挫折で辞めようと思ったことはありませんか。

今までに辞めたいと思ったことはありません。大学では土木関係を学んでおり、そこから建設に長い間携わっていますが、建設業は自分に向いていると思っています。

ただ、前職で安全環境部長の職についた矢先に、現場で死亡事故が起きた時はとてもショックでした。発生日はこの先も忘れることはできません。自分は事故が発生する1時間前まで現場にいたので、あと1時間その場にいたら防げたのではないかと、そう考えたこともありました。この事故を胸に刻み、安全第一でこれからの仕事につなげていきたいと思っています。

ガンシンが地元から愛される会社になるよう力を尽くしたいという中尾さん。挑戦は、まだ始まったばかりです。



企業情報

- ◆ 設立年：昭和23年10月
 - ◆ 年商：20億円
 - ◆ 従業員数：90名
- (※平成30年12月時点)